

事業計画書

事業名	WikipediaTown 沼津
実施場所	沼津市市立図書館他
実施予定期間	2018年4月1日～2019年1月31日

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
	<p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。</p> <p>平成29年度実績 5、7、9、11、1月の5回に渡りWikipediaTownを開催し 9月に静岡新聞に地元情報の活用として掲載、 1月に高尾山古墳と道路建設問題について中立的な立場としてWikipediaに記事を書いている旨を掲載された。 また、FacebookグループWikipediaTownにこの取り組みを紹介したところ福智町で沼津市の取り組みを参考に古墳を元にしたWikipediaTownを開催、近江八幡市ではWikipediaTownの講師役としてCode for Numazu代表の市川が市職員などに講義を兼ねてWikipediaTownを開催、 賀茂郡では小・中学生向けの地域学習計画のモデル事業として取り入れることになり講師としてCode for Numazu代表の市川とメンバーの2名が県職員と下田小学校、白浜小学校の校長、PTA役員、生徒と共にWikipediaTownを実施した。 また、古墳の場所が正確にわかるHPや書籍が存在しなかった為GooglemapとWikipediaに古墳の位置情報を登録し文化財の情報を求める人へのアクセスを容易にした。紙のMAPも作成し、古墳を擬人化したキャラクターを掲載、Code for Numazuのクラウドファンディングの返礼品としても活用された。</p> <p>課題 他都市には活動実績が評価され、成功事例として参考にしてくれる都市が出てきたが、沼津市民に評価されない点。 活動のリーダーを沼津市民にして今後の展開を測りたいが、リーダーが育たない点。 文化財センターと司書以外に市役所職員の参加がない為、公民連携として成り立たない点。</p> <p>実施項目・作業項目 WikipediaTownとは地域にある文化財や観光名所などの情報をインターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載し、さらに掲載記事へのアクセスの容易さを実現した街のことを示す。 沼津市内にある文化財を現地で見学し、調査報告書などの詳しい記述のある関連著書を調べ対象物の記事を自分で書きWikipediaに記載する。</p> <p>沼津市には数多くの文化財があるが、観光協会や文化財センターから出ている情報は極めて少なく興味があっても容易に調べられない状況である。</p> <p>学校の長期連休期間にイベントを行い、親子での参加を容易にする。</p>

子供たちに地域史を教育する中で、子供たちと地域の間を保つ方法として郷土史の多く保存されている図書館を活用し、図書館の正しい活用法や地域史について知る事の大切さを伝える。

WikipediaTown を行う事で、情報の発信を民間から調査資料の協力などを市から提供する事で公民連携という形で文化財の情報を残すことができ、現段階で風化して閲覧が難しくなっている資料をデジタルアーカイブとして保存することで貴重な資料を守ることができる。

第1回：4月後半

第2回：7月後半

第3回：8月後半

第4回：1月前半

◎事業効果

※事業の効果を記載して下さい。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記して下さい。

学校と協力して地域史を学ぶことにより子供の頃からシビックプライドを育成し高めることによって、地域を離れて行ってしまう子供たちが減るもしくは都会から地域に戻ってくる子供たちを増やすことで人口減少に歯止めをかける。

2017年のWikipediaTown 沼津の事業例をみて、賀茂郡が小・中学生向けの地域学習計画のモデル事業として取り入れることになった。

伊豆日新聞記事 <http://izu-np.co.jp/shimoda/news/20171104iz1000000019000c.html>

その他の事業効果

- ・ Web 検索率の向上
- ・ 郷土資料の活用
- ・ 地元の価値の再確認
- ・ 情報の活用
- ・ 資料調査活用のスキル向上
- ・ 世代間交流が生まれる
- ・ 情報リテラシー、ネットリテラシーの向上
- ・ 生涯学習成果のアウトプットができる
- ・ 図書館の正しい使われ方が浸透する

平成30年度は 沼津市内の静浦小学校での実施を目標とする。

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを確認して下さい。

<p>公益性</p>	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載して下さい。 市民の論争の種となっている話題についても 公平な観点から文章を書きどちらに肩入れもしない正確な文章を書き残す ことで当時の状況や経緯を確認することができる。 例：Wikipedia 高尾山古墳 の記事</p>
<p>発展性</p>	<p>※活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 沼津市での活動が他都市へと発展し、広域での繋がりが持てる。 また、沼津市で行った WikipediaTown の参加者が他都市で WikipediaTown の 講師として活躍することができる。 例：賀茂郡が小・中学生向けの地域学習計画のモデル事業導入。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載して下さい。 子供の頃から沼津市の文化財に触れることでシビックプライドを育成し高めること によって、地域を離れて行ってしまう子供たちが減るもしくは都会から地域に 戻ってくる子供たちを増やすことで人口減少に歯止めをかける。</p>
<p>必要性</p>	<p>※事業を実施する意義や、補助金の交付が有益で質の高い事業展開につながる理由について記載して下さい。 古い文化財は自然現象や災害、都市開発により時間の経過によって失われてしま い、記録に残しておかないとそこにあったことを忘れられ去られてしまう。 また、地域史の担い手が高齢化したり減少している中で市民一人一人が文化財に ついて意識、語り継げるようになることが必要である。 また、毎年沼津市は500人単位で10代の若者がいなくなっている為 早急に行わないと伝える対象がいなくなってしまう。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載して下さい。 文化財センターから解説者を呼ぶことにより専門性の高い記事の展開を 行うことができる。</p>
<p>継続性</p>	<p>※助成事業終了後も継続的・自立的な活動とするために、どのように取り組んでいくかについて記載して下さい。 沼津市の文化財や史跡に立っている看板は、設置時から建て替えられている ものが少なく朽ちてしまっていたり文字が読めなくなっているもの が多い。また内容も設置時から見直されていない為、現在の研究からすると 間違っているものも多く、それらを建て替えていき正しい情報を発信する。</p>